

令和8年度



園だより 8月号

杉並区立下高井戸子供園

教育目標 “しあわせいっぱいの子供園”

○もりもりそだつげんきなからだ ○たいせつななかまとじぶん ○かんじるころとあたま

テントウムシを連れてゆく

園長 原 麻弓

自転車通勤中、私の自転車のかごに一匹のテントウムシが止まりました。

「止まっているならば、そのまま子供園までお供してもらおう。」とウキウキしながら自転車をこいでいたのですが、だんだんと心配になる気持ちが出てきました。

「飛べるのに、飛ばずに遠くまで行けることをこのテントウムシは覚えてしまうのではないか?」「手で払って、飛び立たせたほうが良いかな。」「でも、自分が飛びたくなるまでそこにいたら良いかな。」

考えすぎだと感じながらも、小さなテントウムシを見て、“子を育てる親心”が重くなりました。

答えを教えるのは簡単です。

代わりにやってあげるのも簡単です。

「教育」は「教えて育てる」と書きますが、その主語を“大人”ではなく“子ども”にしてみましょう。

「教わって育つ」にすると、大人は何をしたらいいでしょうか。

子どもが「教わって育つ」ために、大人はぜひ、「待つ」ことを意識してみましょう。

「**子**教わる—**親**待つ—**子**育つ」

子どもが教わったことを自分の力にして育つまでの時間を待てる大人になれるといいですね。



子どもを育てることは一筋縄ではいかないものです。毎日毎日、苦労と喜びと悩みの連続です。

子供園は、その苦労や悩みを半分に、喜びは2倍になるように、いつでも保護者みなさんの応援団でありたいと思っています。

園の教育・保育においてお気づきのことがございましたらお知らせください。

1学期、たくさんのご理解ご協力をいただき、感謝申し上げます。
楽しくて安全な夏をお過ごしください。